

行雲流水

No.167 令和4年2月18日発行

「失敗すること」よりも、おのれの「工夫のなさ」を恐れよ

校長 寒河江 正人

さて、生徒諸君にこういうお話を紹介しよう。

曹洞宗の「^{ふうがいほんこう}風外本高」という^{おしやう}絵の上手な和尚さんのお話。

この和尚さんが、大阪の**ボロボロのお寺**に住んでおられたときのこと。
ある豪商が「**困っていることがあるので、相談に乗って欲しい。**」とやってきたそう。

「**これこれこうで、・・・・・・・・。**」と、豪商が悩みごとについて打ち明けたのだが、和尚さんは、**フーンフーンと飛び回るアブ**のことが気になってしょうがない様子。

このアブ、外に出ようとして、^{しょうじ}障子にぶつかって落ちる。

脳しんとうでも起こしたのか、しばらくはおとなしくなる。

あれっ？ 死んでしまったのかと思いきや、

しばらくすると、またフーンフーンと飛び回っては、障子にぶつかって、また落ちる。
アブは、どうやら同じことを何度も何度も、何度も何度も繰り返しているそう。

すると、和尚さんがこう言う。

「あのアブは、かわいそうですねあ。」

「ここは、ボロ寺だから、**あっちもこっちも穴だらけ、すきまだらけ**なのに……。」

「障子の**おんなじところ**にしか、**向かっていけない**ようでは、死んじゃいますなあ。」

じれったくなった豪商は、和尚さんにこう聞いた。

「私の話はそちのけで、アブばかり見ておられる。そんなにアブが気になりますか？」

すると、和尚さんは、こう答えたそう。

「いや、**人間と同じ**だなあと思ってねえ。」

「**同じところからしか物事を見ないから、いつまでたっても、問題が解決しない**んだよ。」

豪商は、はたと気が付いた。そうか、私の悩みもそうなのだな……と。